

平成29年12月22日発行

宮城復興局気仙沼支所

気仙沼市笹が陣3-5

気仙沼市シルバー人材センター内

つちおと

12/9^土

～ 三陸沿岸道路 歌津IC開通！ ～



三陸沿岸道路の南三陸海岸IC～歌津IC間4.2kmが開通し、12月9日に多くの関係者を招いて開通式が行われました。

当路線は東日本大震災時における国道45号の浸水区間を回避していることから、災害時でも信頼性の高い高速ネットワークが実現されます。

また、歌津ICはハマーレ歌津に近接していることから、歌津地区への観光客増加も期待されることです。

この日はハマーレ歌津にて体験交流施設「かもめ館」のオープン式典も行われ、歌津が復興に沸く一日となりました。

12/11^月

～ 南三陸ホテル観洋「ジャパントゥリズム・アワード」受賞式典！ ～

今年8月、「南三陸ホテル観洋」が平成24年から始めた震災風化防止のための「語り部バスツアー」が、日本の観光業界に寄与する持続可能な優れた取り組みを表彰する「第3回ジャパン・ツーリズム・アワード」で、国内外239件の候補の中から大賞に選ばれました。12月11日にはホテル観洋協会主催の式典・祝賀会が同ホテルで開かれ、参加者は実際に「語り部バス」に乗り、1時間半の被災地ツアーを体験しました。自らも被災し葛藤を抱えながらも、使命感を持って活動が続けてこられたホテル従業員の皆様に向け、式典では惜しみない拍手が送られました。

12/1^金

～ 第19回復興交付金交付可能額通知！ ～

10月中旬に被災自治体から提出された復興交付金事業計画に対して、12月1日に交付可能額の通知を行いました。

3県に対して通知を行い、その合計の事業費は約942億円、うち気仙沼市については、鹿折地区、南気仙沼地区の被災市街地復興土地区画整理事業、気仙沼魚市場高度衛生化対応設備整備事業等に約128億円、南三陸町については農山漁村地域復興基盤総合整備事業、道路事業（志津川地区、泊崎地区）等に約9億円となりました。

これまで、平成23年から19回にわたって復興交付金の交付可能額通知を行っているところ、気仙沼市は合計事業費で約3,641億円、南三陸町は合計事業費で約1,423億円を配分しています。

また、第20回の事業計画の開始時期は、市町村等の作業状況を踏まえ検討することとしています。引き続き、気仙沼支所としても、気仙沼市と南三陸町の事業計画の策定や事業の実施に協力して参ります。

～ 進む震災復興【農地の復興が進んでいます】 ～

東日本大震災により気仙沼市および南三陸町では約1,100haの農地が被災しました。

宮城県気仙沼地方振興事務所では、農地の災害復旧と併せて復興交付金を活用したほ場整備（農地の区画整理）を、平成25年5月から10工区合わせて概ね143haで実施しています。ほ場整備とは農地の区画拡大や道水路の整備を行うことにより営農の効率化を図るものであります。事業開始当初から、地域の代表者の方々との打合せを重ねて合意形成を図り、地域の意見を事業に反映させながら進めてきました。



気仙沼地区 杉ノ下工区 ねぎ畑



南三陸工区 廻館工区 水田

その結果、平成29年春までに10工区のうち7工区が完成し、整備対象面積の約80%に当たる114haの農地における作付が可能となり、農家への引き渡しを行っております。

また、今後も、営農を通して農家の皆様から頂く意見や要望を踏まえ、関係機関と調整を図りながら、湧水処理等をはじめとした付帯工事を可能な限り行うなどして、より一層の改善を図っていきます。

さらに、新しく整備したほ場を登記するための換地手続きを進め、平成32年度には全ての事業が完了する予定です。

ほ場整備した農地においては、震災後からの主要作物である水稲栽培のほか、震災後の新たなブランド農産物として官民一体で生産・普及に取り組んでいる「南三陸ねぎ」の生産が可能になるなど、高収益作物の生産を通じた地域経済の活性化が期待されています。気仙沼市の杉ノ下工区では、平成28年7月に主体的な営農組織となる「農業生産法人 シーサイドファーム波路上(株)」が設立され、平成29年10月から震災後初となる「南三陸ねぎ」の収穫が開始されております。



杉ノ下工区 「南三陸ねぎ」の収穫状況

農地復旧やほ場整備に関しては、ほ場のハード的な整備だけが目標ではなく、ほ場条件を向上させることにより、生産コストの縮減、生産作物の選択範囲の拡大等を可能にし、大震災により壊滅的な被害を受けた被災地域の農業復興に大きな期待を与え、地域全体の営農再開意欲の向上を図り、地域経済の活性化に寄与することが最終目標となります。



田植えをされた廻館工区の皆様

苦労した点等を宮城県気仙沼地方振興事務所農業農村整備部にお聞きしました。

『大震災による津波で農地の表土が流出してしまったため、農地復旧においては、作物を作るための良質な土の確保が大きな課題であった。しかし、ほ場整備地区の近傍には農地表土になり得る土が無かったため、他事業から発生する残土を流用して農地表土に代用するための技術検討および関係機関との調整に苦労した。』

また、『復興交付金を活用したトラクターやコンバイン等の貸与支援も行っておりますので是非ご利用して頂けると幸いです。』とのことをお話を頂きました。

～ 志津川湾のラムサール条約湿地登録へ ～

ラムサール条約への登録に向けた活動は、応援職員の阿部拓三博士（南三陸町ネイチャーセンター準備室に勤務。仙台市出身）のマネジメントにより進められております。今回は博士からご寄稿いただきました。

南三陸町の志津川湾（写真右：ここでは、歌津地域も含めた南三陸町の沿岸全域を含む）は、寒流と暖流が混ざり合う独特の海洋環境を背景に多種多様な動植物が生息しています。特に海藻類では、冷たい海を代表するコンブ類のマコンブ（写真下、左）と、暖かい海を代表するコンブ類のアラメ（写真下、中央：地方名はカジメとも呼ばれる）の藻場（もば）が共存する貴重な海とされてきました。また、国の天然記念物で、絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類：環境省・宮城県）でもあるコクガン（写真下、右）の重要な越冬地としても知られ、毎年冬になるとごく間近に観察することができます。

今、南三陸町では志津川湾をラムサール条約湿地へ登録する準備を進めており、順調に進めば2018年10月の締約国会議で登録される見通しです。ラムサール条約とは、湿地を守る（保全・再生）だけではなく、利用し（賢明な利用：ワイズユース）、学ぶ（交流・学習）活動を推進する国際的な枠組みです（サンゴ礁や藻場など海域も湿地に含まれ、志津川湾も対象となっています）。漁業などの産業に活かすことも含まれ、磯焼け対策など漁場を再生させる取組みと合わせて、水産物のブランド力強化にも資するツールです。

現在国内に50ヶ所の登録湿地があり、それぞれの登録地で活発な学習活動が展開されています。近年、登録地同士の交流も盛んに行われるようになってきました。登録されれば、当町の子どもたちが、遠く町外の湿地で活動する子どもたちとの交流を通じて、自分たちの町の魅力を学び伝える機会を多く得られると期待されます。将来のまちづくりを担っていく子どもたちが、地域の自然をこれまで以上によく知り理解することが、誇りあるまちづくりと確かな復興へつながるものと信じています。



マコンブの森



アラメの海中林



コクガン



私は現在、南三陸町農林水産課のネイチャーセンター準備室に派遣されています。南三陸町には、地域の自然を研究し、その成果を教育やまちづくりに活かす研究・教育施設「南三陸町自然環境活用センター（通称：志津川ネイチャーセンター）」がありました。町独自の取組みとして全国的にも注目を浴びていましたが、東日本大震災に伴う津波により流失し、現在は復旧準備中です。その機能を継続させながら新しいネイチャーセンターの姿を地域で形作っていかれたらと思っています。

三陸沿岸は、古くから豊富な海産物をはじめ恵みの多い地域として知られてきました。複雑な地形や独特の海洋環境を背景に多種多様な生物が生息するからこそ多くの恵みを受け取ることができたはずで、地域の自然は地域の宝です。その宝を守り、活かしながら次の世代へも引き継いでいくためには、私たち自身が自然としっかり向き合い、理解する努力を続けることが必要です。まさに復興途中の今、進めていかねばならない大切な課題と考えています。

復興関連イベント

各地で開催される
復興イベントをご紹介します。

【1月13日（土）～14日（日）】御崎神社宵祭&例大祭・どんと祭【気仙沼市】

カツオの大漁祈願で200年の伝統を持ち、「おさきさん」と親しまれる御崎神社で、新年のお祭りが行われます。今は珍しくなった風車（運が回る）、弾き猿（災いをはじく）、さっぱ船（海上安全）といった伝統的な縁起物や、郷土芸能も楽しめます。

【1月21日（日）】志津川湾寒鰯まつり復興市【南三陸町】

脂の乗った旬の鰯、とろける白子、鍋にしてよし天ぷらでよし。捨てるところのないこの時期の鰯を是非。そのほか地元の物産も販売されます。朝9時から、志津川仮設魚市場にて開催の予定。

◆支所長コラム

年内も余日少なくなり、師走の寒さをひとしおに感じております。また、ラニーニャ現象が発生しているとの話もあり、今年の冬は寒くなるのかなと心配しております。■さて、12月には復興交付金の交付可能額通知がなされ、三陸沿岸道路の歌津ICが開通、さらに港町防潮堤においては見直し案が示され、合意形成が図られたところです。■1年を振り返ってみると、気仙沼市と南三陸町の災害公営住宅が全て完成、気仙沼大島大橋の架設、さんさん商店街とハマーレ歌津の両商店街のオープンがありました。着実に復興は進んでいるものと感じます。■「つちおと」も今年最後の発行となりますが、今年一年復興事業にご尽力された皆様方に感謝するとともに、皆様方のご多幸を祈念申し上げます。（吉）

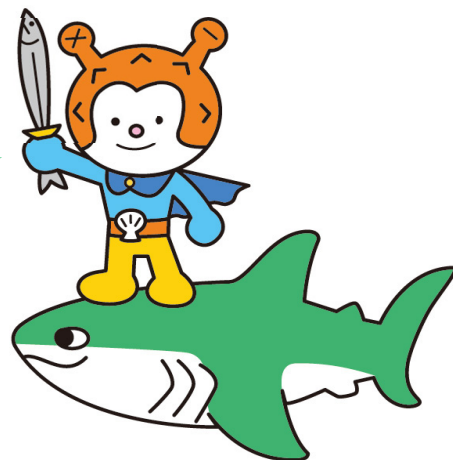
【編集後記】

◆秋頃から健康のため運動するよう心がけているのですが、寒くなって運動に出かける足が遠のきつつあります・・・。

気仙沼支所の 今月のベストショット Best★Shot

唐桑半島の巨釜（おおがま／おがま）の海から空にそびえる天然の石柱が折石だよ。

1896年の明治三陸津波で先端2mぐらいが折れて、今は海中から約16mが出ているんだ。



気仙沼市唐桑 折石



これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

- ①復興庁のホームページ
- ↓
- ②宮城復興局
- ↓
- ③気仙沼支所だより「つちおと」

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話 0226-23-5301
FAX 0226-23-5310

復興庁ホームページ
<http://www.reconstruction.go.jp/>